

令和5年度芦東山記念館運営委員会 会議録

- 1 会議名 令和5年度芦東山記念館運営委員会
- 2 開催日時 令和6年3月13日（水） 午後1時30分から午後3時5分まで
- 3 開催場所 芦東山記念館ホール
- 4 出席者
 - (1) 委員 菊池徳夫委員（委員長）、及川雅晴委員、菊池和房委員、千葉耕士委員、佐藤弘幸委員
※欠席者 片岡龍委員
 - (2) 事務局 吉田正志芦東山記念館長、
佐藤信彦大東支所次長兼地域振興課長兼芦東山記念館次長、
永澤仁也大東支所地域振興課長補佐兼まなび・いきがづくり係長兼副館長、小味浩之一関市民俗資料館主任学芸員兼芦東山記念館主任学芸員、張基善専門学芸調査員、千葉真由美業務推進員、千葉浩子業務推進員

5 議 題

- (1) 令和5年度芦東山記念館事業経過報告
 - ア 令和5年度芦東山記念館自主事業実績報告等
 - ・ 特別展、講演会等の開催状況 1 ページ
 - ・ その他事業及び協力活動 2 ページ
 - ・ 令和5年度入館者の推移 3 ページ
 - ・ 令和5年度団体入館一覧 4 ページ
 - ・ 芦東山記念館ホームページアクセス数 5 ページ
 - イ 令和5年度芦東山記念館調査研究事業実績報告 8 ページ
- (2) 令和6年度芦東山記念館事業計画（案）
 - ア 令和6年度芦東山記念館事業計画（案） 10 ページ
 - イ 令和6年度芦東山記念館調査研究事業計画（案） 11 ページ

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 0人

8 吉田正志芦東山記念館長挨拶

本日は大変お忙しい中、年度末にも関わらず運営委員会にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。御礼申し上げます。3年間、蔓延していた新型コロナウイルス感染症の位置付けが今年度に5類に移行したこともあり、本年度の芦東山記念館で企画した事業は順調に実施できたものと思っております。ただ、手放しで喜べないところ

があり、我々が力を入れてきている入館者の数が期待どおりの人数に至っていません。それは、社会的な問題があって入館者の数が増えなかったのか、または、企画側の問題があったための結果なのか様々な要素があったと思います。

本日は、運営委員の皆様今年度の事業の報告をさせていただくとともに、様々なご意見を頂戴して、今後の記念館の運営に活かしていきたいので、忌憚のないご意見を頂戴したいです。どうぞよろしくお願い致します。

9 審議内容

(1) 委員長及び副委員長の選出

一関市芦東山記念館運営委員会規則第4条2項の規定に基づき、委員長及び副委員長を互選した。委員長には、菊池徳夫委員、副委員長は、及川雅晴委員を選出した。以後は、委員長が議長として会議を進行した。

(2) 令和5年度芦東山記念館事業経過報告

ア 令和5年度芦東山記念館自主事業実績報告等

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 地域からの協力は、どのくらいの方に協力いただいたのか。

事務局 婦人会の方は約20名の方に協力をいただいた。地元の自治会の草刈作業については、早朝の作業で地域全体の作業も兼ねているので、人数を把握していないが、30名以上の方には協力いただいたと思われる。

委員 地元の自治会で、市民センターから芦東山かるたを借りて小学生とお年寄りと一緒にやってみたが、地元にもかるたがあるが上手くいかなかった。またやってみたい。

委員 3月3日に開催した特別講演会の聴講者は多かった。そのとき駐車場が狭いと言われた。通常は良いが、講演会などがあるときは駐車できるスペースが足りないと前々から言われてきた。できれば正面の丘を整備して拡張してほしい。

委員 特別講演会の聴講者は、大東町内とそれ以外の割合はどれくらいになっているか。大東町内の方にたくさん参加してもらいたい。

事務局 聴講者の方は、講演会のテーマにより顔ぶれは違う。3月3日の特別講演会の場合は、テーマが植物学とあって市外からの聴講者も多かった。

委員 3月3日の植物学の講演会の話は難しくなかったか。

事務局 難しくはなかった。わかりやすい話だった。

委員 講演会に来館される方は宮城県からも来ているのか。

事務局 来ている。

イ 令和5年度芦東山記念館調査研究事業実績報告について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 9ページの(3)アの7番の利用者は茨城か埼玉の方だったか。

事務局 埼玉の方である。文久山鉄山の資料について自身で様々調査しているようで、絵図をアレンジして復元する作業をしていると思われる。

委員 個人収蔵の無刑録写本は何巻だったか。

事務局 第1巻と第2巻で非常にきれいな文字で書いているが、どなたが、いつ、写したものかは確認できていない。書いてある内容や余白に書いてある「注」などを調査すれば、どのような流れの写本なのか確認できるかと思うが、時間がかかる。

委員 世の中に写本はまだまだある可能性がある。

事務局 写本の状態は良く、きれいなものなので驚いている。写本については関係者が研究をしているが、岩手県、宮城県などに関連するところが出てくる可能性は十分あると思われる。

(2) 令和6年度芦東山記念館事業計画(案)について

ア令和6年度芦東山記念館事業計画(案)について及び、イ令和6年度芦東山記念館調査研究事業計画(案)について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 特別展の内容に出てくるお宅は資料館のようになっており、今も資料はそのままにしているのか。紛失などしていないのか。

事務局 個人所有の資料については、一関市博物館にも情報提供されており、個人資料が無駄になるということはないと思われる。

委員 特別展③の講師を予定している方は、田村藩のことも調べていて各地で講演をしている。記念館に関係する内容になるものか。

事務局 特別展③の内容で、現時点でどのような方を取り上げるか確定していない。大東や東磐井地域に限定しなくても、一関市域の方などに広めることも必要と思う。講演会についても他地域の方が来ているので、多方面の人物を紹介することにより、記念館に興味を持ってもらうことができると思う。

委員 講談師の方は大変勉強している。地域の昔話を題材にして高座している方である。

委員 昆虫関係の資料は、陸前高田の博物館に結構展示している。

事務局 令和4年度に昆虫展を行ったが、蝶々は取り上げていない。展示スペースの関係でカブト虫、クワガタ虫、セミに焦点を当てて行った。その際も蝶々は調

べている。展示の準備は、5月からの展示であるので、前回やった昆虫展の調査の資料が活かせる。令和5年度の4月から5月までの入館者を令和4年度と比較すると1.5倍の差がある。特別展の内容を比べると、昆虫展の際は入館者が多かった。子ども向けの内容だったこともあり、集客につながったのではないか。

委員 特別展②のお金の展示する範囲はどこまでか。

事務局 具体的な内容はこれからである。通史的に広くお金について紹介していきたい。これから資料の調査をすることになるので、どこの部分を紹介するかはこれから検討する。ただ、大明神古銭は外せないと思う。また、新紙幣のことは取り上げていきたい。

委員 大明神古銭は県立博物館で展示されたことがあったと思う。

事務局 県立博物館の特別展で展示されたかは定かでないが、発掘された当初は、全国を巡回して開催される「発掘された日本列島展」のような大きな展示会にも展示された。最近では、数年前に一関市博物館での展示があったがそれ以降はない。

委員 調査研究では芦東山関連の調査が主になっているが、調査の範囲を広げて鉄関連の調査を今のうちに取り組んでほしい。

事務局 令和5年度の資料調査の傾向としては、製鉄関連の資料が増えている。細桑芦家は直接文久山鉄山に関わっていたので、製鉄関係の資料は多く含まれている。これからの資料調査では、おのずと製鉄関連の資料の比重は高くなってくると思われる。

委員 製鉄関連の事を調べている方がいて聞かれることがあるが、資料が少ない。文久山鉄山は注目されているようなので、もっと調べてほしい。

事務局 承知した。芦家が製鉄関係に関わった功績は非常に大きい。また、一関市以外の方から地域の資料に関しての問合せや、資料についての情報提供があった場合は、記念館の方にも連絡してほしい。仙台藩の資料には製鉄関係の資料も残っていて、その中には芦家関係のことも非常に多い。製鉄関連以外のことでよいので、地域に眠る史資料に関する情報がある場合は、記念館へも情報提供してほしい。

委員 大東地域にこのすばらしい施設や資料があることを、大東町内の教職員がどれくらい理解しているのだろうか。大東町時代には町内の施設巡りをして、地域を理解することができた。今はないので、教職員が入れ替わっている中で、地域の財産を理解していくにはどうしたらよいか考えるところがある。教職員

自らが体験する機会があったほうが良いと思う。教育課程の中で学習内容とリンクする部分は実際には少ない。総合学習などの時間でしか取り組めないのも、どう繋いでいくかが課題である。

児童数が急激に減少している。5年後には半分になる。地域に誇りを持つためには、地域の偉人や歴史を知ってもらって世の中に出て行ってもらいたい。

事務局 2 ページ目の館外活動に、大原小学校で出前授業の対応をしたとある。これが、委員の言っていることに関連することと思う。大原小学校では1年をかけて、地域に誇りを持とうという内容の総合学習で地域の様々な事を学習していた。その際、教職員が記念館に見学に来て、授業の進め方を記念館と相談して決めていった。現場の教職員で考えるのは負担であれば、記念館に相談していただきたい。

委員 大東支所の地域振興課で、教職員を対象に大東町内の施設見学を計画していただけなものか。

事務局 職員で詳しいものがあるとは限らないので、実施は難しい。

委員 以前は大原小学校の6年生の児童が、バスに乗って現地に行って地域の文化財について学んだことがあった。お祭りはわかるが文化財はわからないのではないか。市民センターと学校が協力してやらしてもらえば良いと思う。

委員 学校統合が進むと、学区の範囲が広くなり足元が遠くなる。近くのことをわからないが、遠くのことをわかるようになる。大人も様々考えていかなければならない。

10 担当課 芦東山記念館（大東支所地域振興課）